

巻頭言

もったいない学会：WEB 学会誌の創刊にあたって



もったいない学会会長、東京大学名誉教授 石井吉徳

「もったいない学会」は「学会」として発足させた。この意味はとメディアなどから質問されるが、それには山積する地球規模問題にアカデミズムが答えられないでいる、在来の学会は総合的な視点を欠くから、と答えている。そしてその趣旨は、安く豊富な石油があった時代が終わりつつある、日本の自然と共存するには自分で考えるしかない、大陸である欧米はもう参考とならないと述べてきた。

いまの学会は細分化、専門化し過ぎている。学会の議論も部分は緻密だが全体を見通せないでいる。それは長年の、徹底して考えようとしないう風潮のためであるが、それは没個性のほうが日本社会では安泰だったからであろう。だが石油ピークは文明の根底を揺すぶろうとしている。幾何級数的な成長を前提とする現代文明が根本的な岐路に立たされている。

「石油ピークは農業ピーク、そして文明ピーク」、これが「もったいない学会」の基本理念である。社会は集中から分散、脱浪費、そして「もったいない」を信条とする時代がくる。それは先のことではない、すでに 2005 年、世界の原油生産がピークを打ったようで、これは私の予想より早かった。だが日本はそれに対する心構えはまだない、それは石油ピークを理解しないからである。だが地球は有限、自然にも限りがある。限界は必ず顕在化する。

対する戦略は科学的でなければならないが、その基準が EPR (Energy Profit Ratio) である。21 世紀は、高 EPR 時代から低 EPR 時代への移行する世紀と思われる。

しぶとく生存する社会、したたかな日本を目指すには、今までの集中から分散へ社会のベクトルを変えるのである。本学会で有志が知恵を出し合い、それを広く国民に情報発信する。そのメディアがインターネットでの「WEB 学会誌」である。